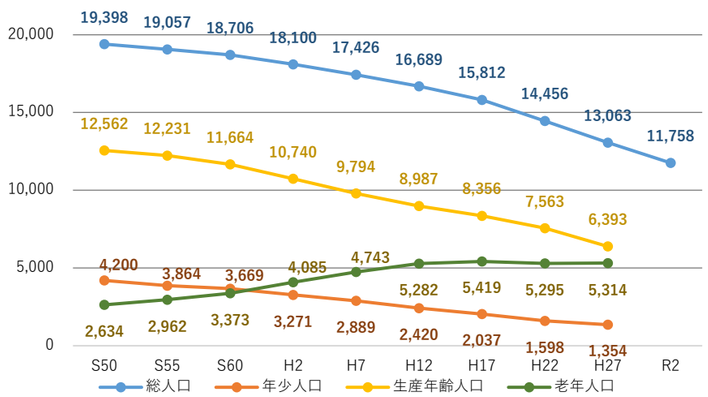
（1）奥出雲町の人口に関する動向

■人口の推移

●昭和 50 年から平成 27 年にかけて、**総人口が約 6,300 人減少**し、19,398 人から **13,063 人**となっている。

●同期間の年齢 3 区分別人口を見ると、老年人口は平成 12 年までは増加、以降は現状維持で推移しており、生産年齢人口、年少人口については一貫して減少し続けている。
老年人口は昭和 50 年から**約 2 倍増加**し、逆に**生産年齢人口は半減**し、ほぼ同水準となった。
年少人口の減少幅は大きく、**約 7 割・約 3,000 人減少**した。

【総人口と年齢３区分人口の推移】



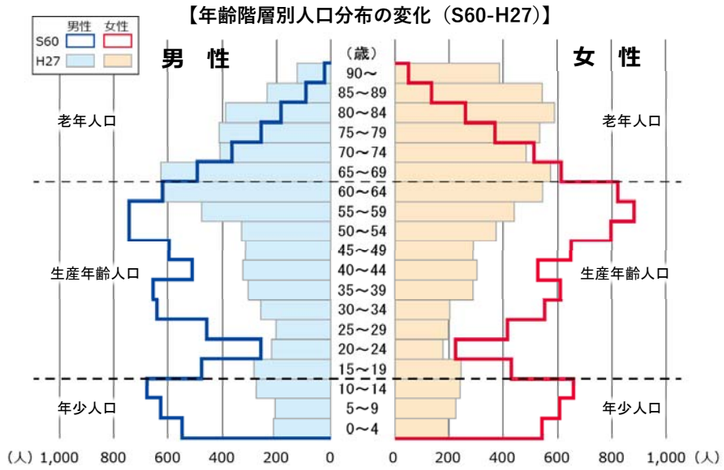
■年齢階層別人口の変化

●昭和 60 年は、男女とも 55 歳～59 歳の人口が最も多く、生産年齢人口が 6 割を超えていた。高齢化率を見ると男性 15.8%、女性 20.1%であった。

●平成 27 年には、**少子高齢化により、年少人口・生産年齢人口が減少し老年人口の割合が増加**している。
男性の**高齢化率**は 35.4%に、女性の**高齢化率**は 45.5%と **2 倍以上の増加**となった。女性の高齢化率は男性より 10%高くなっている。

●男女とも 65 歳～68 歳の団塊の世代の人口が多くなっている。女性は平均寿命が男性より高いこともあり、75 歳以上の年齢層も増加している。

【年齢階層別人口分布の変化（S60-H27）】



	男性		
	S60	H27	増減率
老年人口	1,430	2,197	53.6%
生産年齢人口	5,743	3,326	-42.1%
年少人口	1,868	691	-63.0%
総人口	9,041	6,214	-31.3%

	女性		
	S60	H27	増減率
老年人口	1,943	3,117	60.4%
生産年齢人口	5,921	3,067	-48.2%
年少人口	1,801	663	-63.2%
総人口	9,665	6,847	-29.2%

	男女計		
	S60	H27	増減率
老年人口	3,373	5,314	57.5%
生産年齢人口	11,664	6,393	-45.2%
年少人口	3,669	1,354	-63.1%
総人口	18,706	13,061	-30.2%

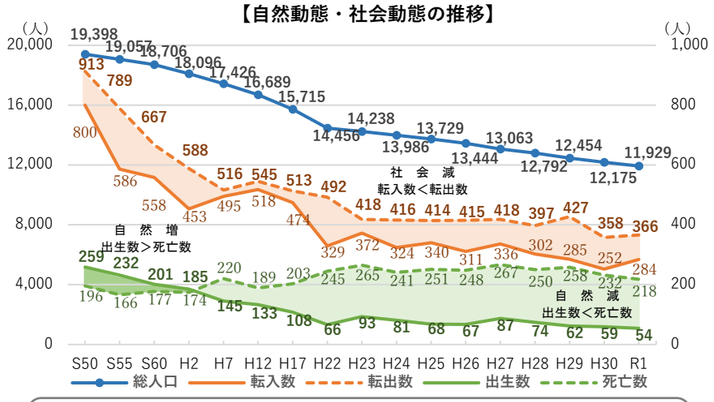
■人口動態

●「**自然動態**」については、昭和 50 年から平成 2 年までは出生数が死亡数を上回る自然増の状態だったが、**平成 2 年以降、死亡数が出生数を上回る自然減に転じ**、平成 17 年まで徐々に自然減の減少幅が大きくなっていった。**平成 22 年以降は自然減 170 人前後で横ばい傾向で推移**している。

●「**社会動態**」は昭和 50 年以降、転出者数が転入者数を上回る社会減が続いている。**平成 7 年～17 年にかけて減少幅は一時改善**したが、以降は転入数が減少し続け、**近年は社会減 100 人前後で推移**している。

●「総人口」は、平成 2 年までは社会減の影響で減少、それ以降は徐々に自然減の影響による人口減少が大きくなってきている。

【自然動態・社会動態の推移】



自然動態：出生・死亡による人口の増減数（出生児数-死亡者数）
社会増減：転入・転出による人口の増減数（転入者数-転出者数）

■合計特殊出生率の推移

●**昭和 58～62 年**では仁多町で 2.59、横田町で 2.34 と**高い値**であった。

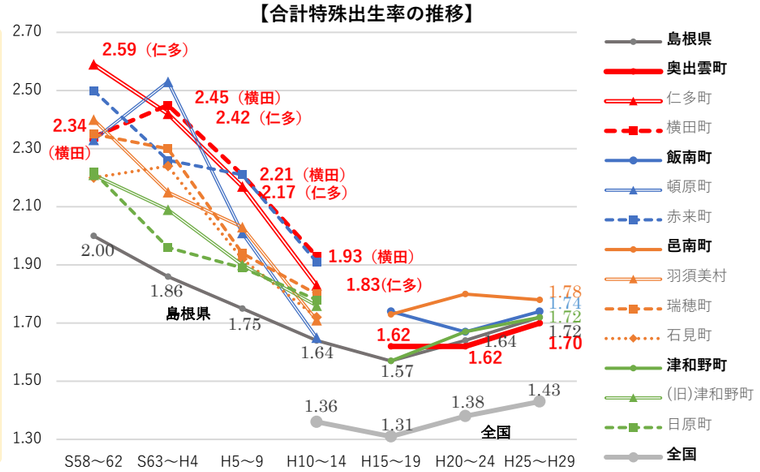
●平成 14 年まで県平均や類似自治体より高い水準で推移していたが、平成 15～19 年にかけて 1.62 まで大きく低下、**平成 25～29 年には増加傾向に転じ 1.70** となった。この値は島根県平均や類似自治体を下回っており、**県内 19 市町村のうち 14 番目の値**となっている。

【参考】奥出雲町より低い自治体

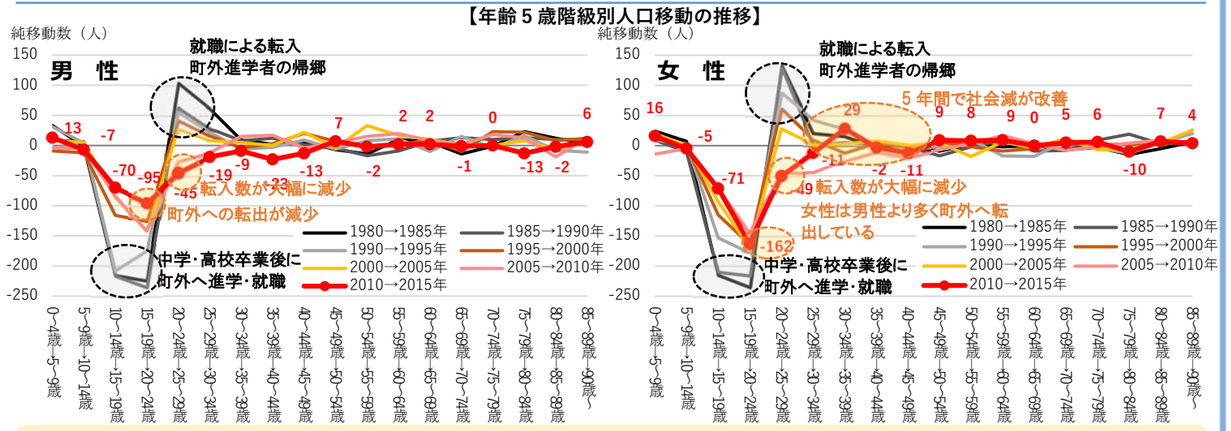
川本町 1.69、海士町 1.68、松江市 1.66、

雲南市 1.65、安来市 1.63

【合計特殊出生率の推移】



【年齢５歳階級別人口移動の推移】



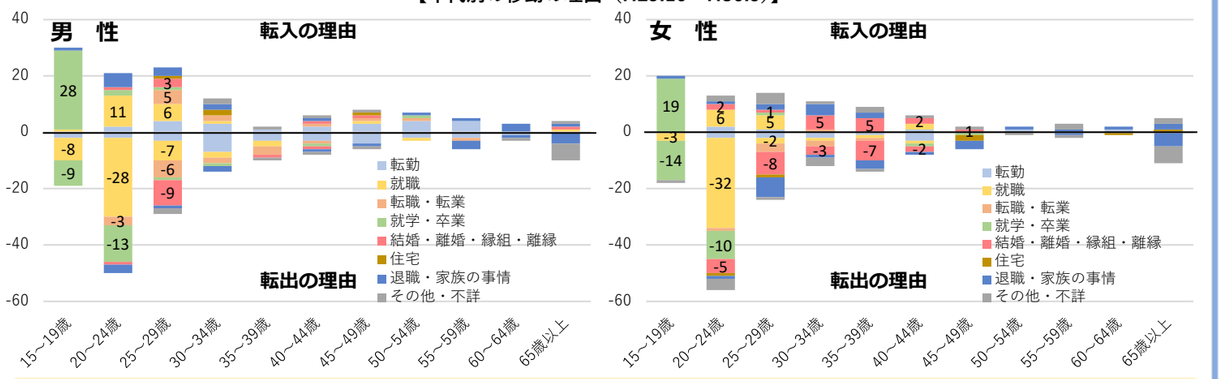
■性別・年齢階級別の人口移動の長期的動向

●男性・女性ともに **10 歳代から 20 代前半までの高校進学の時期、高校卒業後の就職・大学進学の時期で大幅な転出超過**となっている。**男性に比べ女性の転出が多い**状況となっている。

●**大学卒業後に就職をする年代**である 20 歳～24 歳については、2000 年以前は転入超過となっていたが、**近年では、男女ともに転出超過に転じている。**

●出生数に影響する**母親世代（15 歳～49 歳の女性）**の社会増減を見ると、**五年前と比べ 25 歳以上から全ての年代で増加**しており、**特に 30 歳～34 歳の世代は 29 人の転入超過**と大きく増加している。

【年代別の移動の理由（H29.10～H30.9）】



■年代別の移動の理由

●男女とも 15 歳～29 歳までの若い世代の移動数が多い。

●**15 歳～19 歳**の移動理由を見ると、男女とも**就学・卒業による転入出**が多い。

●**20 歳～25 歳**の移動理由を見ると、男女とも**就職による転入出**が多い。また、**就学・卒業による転出**も見られる。

●女性の移動の理由は結婚・離婚に伴う移動の割合が男性より大幅に高い。

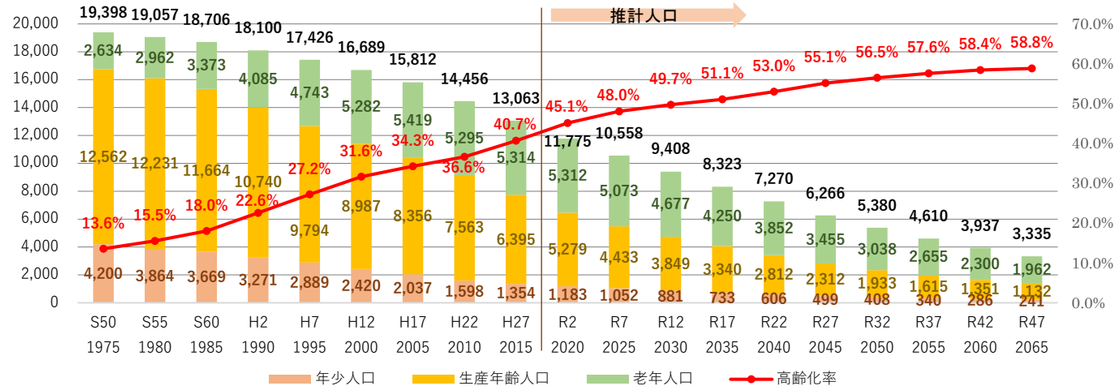
（２）奥出雲町の将来の人口状況

■将来の人口状況（社人研推計結果）

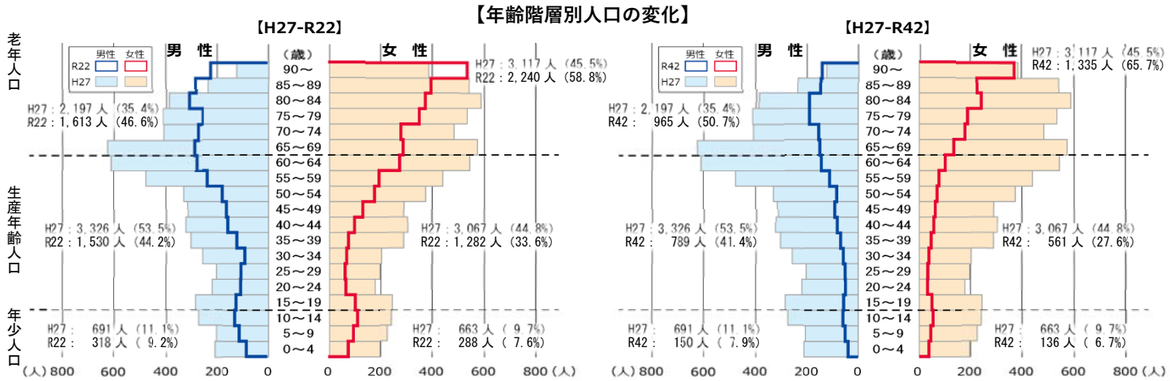
●2020 年以降も減少を続け、**2040 年には 7,270 人、2060 年には 3,937 人**になるものと推計されている。
●年齢３区分人口の推計を見ると、**2015 年の人口と比較**し、**2040 年**には**年少人口と生産年齢人口は５割強減少**し、606 人・2,812 人に、**老年人口は３割減**の 3,852 人に、**高齢化率は 53.0%**となる。
●**2060 年**にはさらに減少が進み、**年少人口と生産年齢人口は８割減少**し、286 人・1,351 人に、**老年人口は約６割減**の 2,300 人に、**高齢化率は 58.8%**となる。
●**人口減少の段階**※を見ると、総人口、年少人口、年少人口は一貫して減少、老年人口も 2025 年から減少に転じ、本町の人口減少は**第３段階に移行**していく。

※人口減少段階について
一般的に「第１段階：老年人口の増加（総人口の減少）」「第２段階：老年人口の維持・微減（減少率 0%以上 10%未満）」「第３段階：老年人口の減少」の３つの段階を経て進行するとされています。
奥出雲町においては、平成 12 年以降、老年人口が横ばいで推移しており、現状で既に「第２段階」にあります。

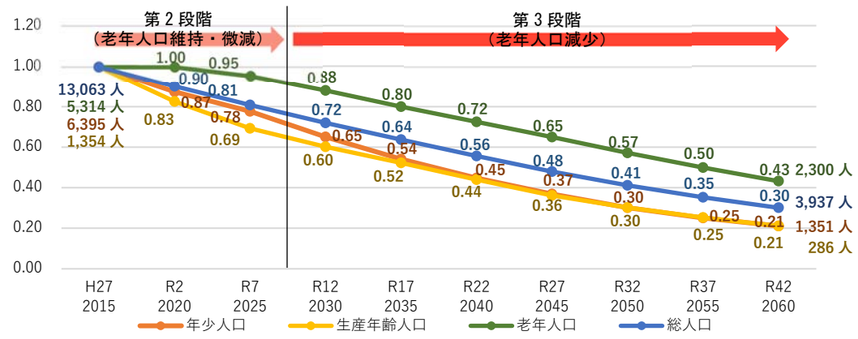
【年齢３区分人口と高齢化率の将来予測】



【年齢階層別人口の変化】



【人口の減少段階（H27 人口を 1.00 とした場合の推移）】



（３）人口の将来展望案について

■第１期人口ビジョンで設定した人口の将来展望の検証

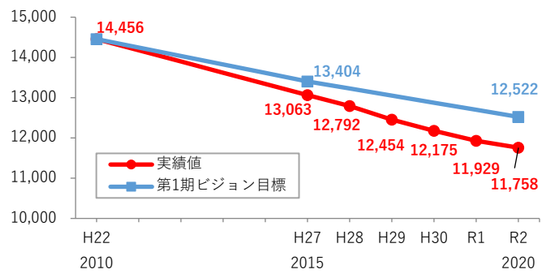
●**第１期人口ビジョン**（H27.10）では、人口減少抑制対策の取り組みにより下表の条件を達成し、**2040 年に人口１万人程度を確保することを目標**としていた。
●**令和２年の奥出雲町の人口は 11,758 人**※であり、第１期人口ビジョンの目標推計における令和２年の数値を**約 800 人下回っている。**

※「島根県の人口移動と推計人口（令和２年６月１日）」の人口。住民票の異動をもとに推計した人口であり国勢調査と調査方法が異なる。

【第１期人口ビジョンの取り組み目標】

項目	取り組み目標
自然動態	合計特殊出生率を 1.62 から 2040 年に 2.10 まで回復させる
社会動態	下記の取り組みにより年間 40 人の社会増を加える。 ①「定住就職奨励金」を活用した UI ターン者数を 40 組 70 人/年から 60 組 100 人/年に増加させる。 ②転職による転職者数を年間５人抑制する。 ③横田高校卒業時の町外転出者を年間５人抑制する。

【第１期人口ビジョンの目標推計と実績値】

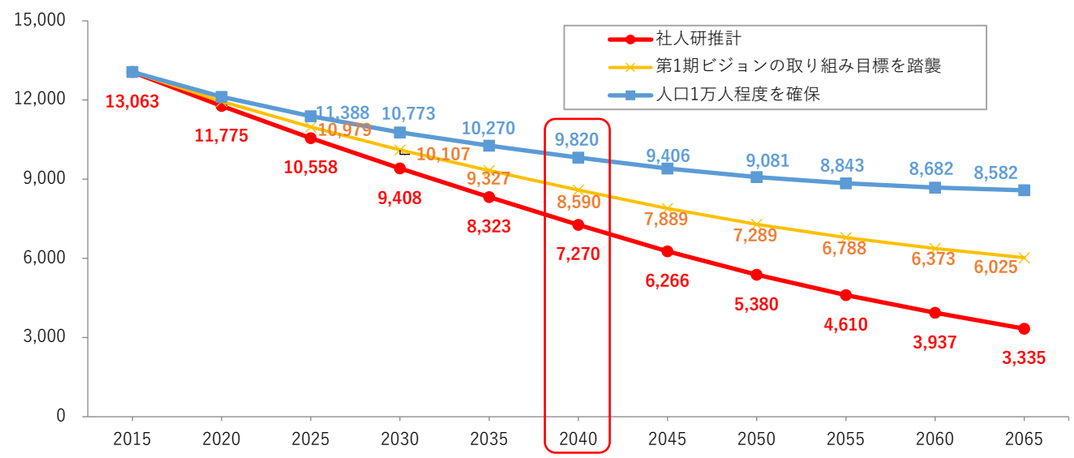


奥出雲町実績値
平成 22 年・27 年：国勢調査、平成 28 年～令和２年：島根県の人口移動と推計人口
※令和２年の実績値は６月１日現在の値

■第２期人口ビジョンの将来展望の検討

●第１期人口ビジョンの取り組み目標（自然動態：合計特殊出生率 2.10 まで回復/社会動態：社人研の推計結果に年間 40 人の社会増を加える）を踏襲した場合のシミュレーションと、2040 年に人口１万人程度を確保するために必要な条件を検証するシミュレーションを実施した。
●**第１期人口ビジョンの取り組み目標をこのまま踏襲した場合**、2040 年は 8,590 人となり、人**口１万人程度確保の目標を達成できない。**
●**2040 年に人口１万人程度を確保するため**には、第１期人口ビジョンの社会動態に関する取り組み目標を強化し、第１期人口ビジョンの**社会動態に関する取り組みの数値目標**（40 人/年の社会増を加える）**を２倍（80 人/年）とする必要**がある。

【2040 年に人口１万人程度を確保するために必要な条件】

項目	条件
自然動態	合計特殊出生率を 2040 年に 2.10 まで回復させる
社会動態	社人研の推計結果に年間 80 人の社会増を加える。 →第１期人口ビジョンの取り組み目標の年間 40 人増を年間 80 人増になるよう取り組みを強化する

【シミュレーション結果】